

申込受付中

3/25 金

午後2時～4時

※先着順  
保育あり

講師:

中西 泰子さん

※区民による企画・運営講座です。



平成21年度の区民企画講座の様子

エポック10区民企画講座

# 親の世話をするのはだれ?

～“娘・息子”の介護意識とジェンダー～

親子の愛情に支えられる介護はなぜ“息子”ではなく“娘”の役割となるのでしょうか。将来、介護を担う20代の若者の介護意識から、これからの親子関係について考えます。

今回の区民企画講座のテーマは「介護とジェンダー※1」です。女性が結婚するとなぜ自分とパートナーの4人の親の世話を一人で、しかも無償で担うことが当然とされるのか。高齢化社会が急速に進んでいる現状の中で、とりわけ女性は長寿ゆえパートナーに先立たれた後の一人暮らしをいかに支えていくか。高齢者虐待を受ける当事者の多くは高齢女性で息子の割合が高いのはなぜか等、政策の立案・実施等全ての段階において、ジェンダーの視点を導入することの必要性を認識する契機にするのがねらいです。(吉田隆)

※1 ジェンダー…社会的文化的につくられた性別のこと



私たちが選んだ

## “介護の本”

関連書籍 紹介



本書は調査に基づいて女性・男性とも男性自身が介護を行うという選択肢はほとんど認識されず、男性の介護における老親との関係やケアの現場からなぜ男性が排除されるかについて、性別分業の再生産の面から考察している。また就労女性(娘)の立場での介護はケアの正当な価値が認められないために女性の経済基盤を危くするという指摘も鋭い。(吉田隆)

『若者の介護意識』

親子関係とジェンダー不均衡

中西泰子著／勁草書房／二〇〇九



男の現在と将来を詳細に、また多角的に分析し、まさに一刀両断。虚勢を張って生きてきた〈男のビョーキ〉が老後の幸せの実現を邪魔し、女性のしなやかな老後の生き方とは対照的なものになるという筆者の指摘は正しい。

ゆえに40～50歳代の男性諸君は良く読み、60歳代以上は「男の七戒」と「おひとりさま道10か条」を心に留めたい。(西川栄治)

『男おひとりさま道』

上野千鶴子著／法研／二〇〇九



家族やまわりの人にさんざん迷惑をかけた挙句、満身創痍になって死ぬことは、多くの人が避けたい死に方でしょう。人間を丸ごと診る医療を心がけてきた医師の勤める、今を生きながら、「死」に向かって、日々エネルギーを高めるための12か条も記されています。(柴田淳子)

『達者でポックリ。』

帯津良一著／東洋経済新報社／二〇〇八



様々な人たちの体験談が書かれています。介護される側の衣服の楽しみ方、栄養面で気をつけること、終の棲家についての事情など、わかりやすく伝えてあり、老いについて前向きに考え、がん、認知症への対応など、介護する側、介護される側、双方に参考になる本。世代を問わず、老いを考えるよいきっかけになると思います。老いという道しるべを楽しくさせてくれる一冊です。(河島恵子)

『幸齢な生きかた』

青木みか・高橋ますみ編著／風媒社／二〇〇九